

書写

の授業に新風をその一

山梨大学教授 宮澤 正明

今回は、平成18年度版中学校国語科書写第一・二学年用教科書の紹介をいたします。
学習指導要領では、中学校国語科書写は第一学年及び第二学年をまとめて示しています。確認の意味で、次に掲載します。

中学校学習指導要領 国語第二・第二学年及び第三学年「言語事項」(3)

(3) 書写に関する次の事項について指導する。
ア 字形、文字の大きさ、配列・配置などに配慮し、目的や必要に応じて調和よく書くこと。
イ 漢字の楷書や行書とそれらに調和した仮名の書き方を理解して書くとともに、読みやすく速く書くこと。

連載 書写が目ざすもの(13)

新しい教科書で



「書写」2・3年 P14-15「二行書の特徴を生かして書こう」の「ステップアップ」

アでは、これまでの書写学習の総まとめの意味と、書写の日常化に対応できる能力の育成に関する内容が盛り込まれています。それに加えて、イでは、新たに速書きとしての行書とそれに調和する仮名の書き方を学び、多量の文・文章を速く書く能力や、人の話を適切に速く書き留める書写力を養うこととなっています。

これを受けて、教科書が編集されているわけですが、現行の中学校国語科書写第一・二学年用教科書の単元は、それぞれの学年に分けるのではなく、二年間を通して構成されています。18年度版教科書もこの方式が踏襲されています。というのは、中学一・三年の書写の授業時間は国語の総時間数の十分の一程度とそれぞれ限られています。その中で効果的な学習を進めるためには、生徒一人一人の要求や学習の深度などに応じた単元構成によるほうが、生徒の実態に即して現実的であるとの考えからです。そこで、学年を超えて学習ができる「ステップアップ」方式が採用されているのです。

18年度版教科書では四つの「ステップアップ」が用意

されていて、実態に応じて臨機応変にカリキュラムを組むことが可能になっています。ここで、第一単元の構成とその中の「ステップアップ」をのぞいてみましょう。

第二単元・めあて「行書の特徴を生かして書こう」
第一学年で学んだ行書の特徴を、「空間芸術」を教材にして確認、復習します。

行書の点画の丸み・連続、省略のルールを学び、「雷鳴」を主教材にして確認します。

行書の点画の省略方向や形の変化と筆順の変化のルールを学び、「読書」を主教材にして確認します。

これで、行書の特徴の確認が一段落しますが、これらを総合的かつ深めるためのページが次の「ステップアップ」です(上段のページ)。

ここでは、「情趣」を教材にして行書のまとめとし、さらに理解を深めるために、「書聖といわれる王羲之の書とその解説を参考資料として掲載しています。また、豆知識として、「りっしん偏」の成り立ちや筆順を図解しています。漢字の知識を理解し豊かにすることは、書写技能向上にもかかわることを示しています。文字の成り立ちをはじめ、文字に関する文化的背景、用具・用材などの知識なども含めた学習を折に触れて行うことは、書写の学習の意欲の喚起や動機づけとも関連することであり、活用してほしいコラムです。漢字の成り立ちに関する「コーナー」として、そのほかに、「資料 漢字の成り立ち」で漢字の造字法を学習することができるようになっています。書写が、言語事項のほかの学習内容と横断的に学習できるように配慮されているページといえます。

「書写」2・3年 P.28 「四 生活に生かそう」



「書写」2・3年 P.32 「書写の広場 チャレンジしよう」

「国語」1 P.106 「いろは歌」



「書写」2・3年 P.22



「書写」2・3年 P.40 「資料 漢字の成り立ち」

先に掲げた学習指導要領の「イ」にあるように、中学
一・二・三年の新しい学習内容である行書に調和する仮名は、
新しい教科書ではどのように示されているのでしょうか。
平仮名は漢字の草書体を簡略し、片仮名は漢字の一部
分をとった文字ですから、仮名には漢字のように書体の
区別はありません。したがって、「行書に調和する仮名」
という言い方をします。また、もっと言えば「速く書く
ことのできる仮名の書き方」と言い換えることもできま
す。この考え方をもって18年度版教科書では、「ゆっく
り丁寧に書いた平仮名」と「行書と同じように速く書い
た平仮名」という言い方で比較して理解を図るようとして
います。



「書写」2・3年 P.18 「三 行書と仮名を調和させて書こう」

なお、平仮名を「いろは歌」で示してあります。「国
語」の教科書（一年P.106）との関連を図り、国語での
音読として扱う方法に対して、書写させる方法を取って
います。このような工夫は、書写が単に技能習得だけ
ではなく、言語や文学とのかかわりや結びつきが強いこと
を意識化できるように配慮したものです。
書写の日常化を図るためのページは数多く用意されて
いますが、議事録のメモ、それをまとめるといった例が
掲載されています。生徒の書写力の日常化を図るために
参考になるでしょう。また、各種書式や「ステップアッ
プ」に用意されたカレンダーや百人一首などへの趣味的
応用は、書写を生活に生かす方法を教えてくれています。



「書写」2・3年 P.38 「発展 古典の文字を見て書く」

このように、18年度版教科書は、書写の基礎・基本を
徹底させながらも、書写の学習が生活に生きて働くよう
に工夫されており、「国語」教科書との関連を図りなが
ら確かな国語力の基盤形成に資する豊富な内容となっ
ています。